

## V. 特記事項

### 1. 別科助産専攻について

本学の別科助産専攻は、平成 21(2009)年看護学部開設の翌年に開設し、開設以来 100 人以上の助産師を県内外に輩出している。アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜には、佐久大学看護学部在学学生推薦入学試験および一般入学試験があり、助産師を目指したい学生が看護学部卒業後も継続して本学で学ぶ機会を用意している。このことは高校生の本学看護学部入学への動機の一つにもなっている。カリキュラムは、基礎・実践・関連領域の計 22 科目で編成され、修了時には助産師国家試験の受験資格、受胎調節実地指導員認定申請資格、新生児蘇生法「専門」コース(A コース)認定申請資格を取得できるようにしている。

本学では、開設当初にあった看護専門学校出身者への助産師教育を望む声には、一定程度応えられたと考えており、近年の入学生の半数以上は大卒者であること等の変化に対応し、別科から大学専攻科への変更を検討している。

### 2. 国際交流・教育センターについて

本学では開学時より国際化を見据え、海外の大学と学術交流協定(MOU:Memorandum of Understanding)を締結し、学生や教員の交流を促進している。平成 29(2017)年には、佐久学園国際交流・教育センターを開設し、国際交流を通して異文化理解を深め、異なる価値観を受け入れる専門職の育成を目的として以下の活動を実施している。

- 1) 学術交流では、タイ王国ブラパ大学の学生間交流、研究者の共同研究を促進している。令和元(2019)年に協定を締結した聖路加国際大学と地域貢献・地域連携及び国際貢献連携をすすめる。
- 2) 海外研修・視察受入では、JICA((独)国際協力機構、以下 JICA) 関連プロジェクト計 12 件 91 人の研修・視察を受け入れている。また、佐久市、ブラパ大学、タイチョンブリ県サンスク町、JICA、佐久大学でパートナーシップを締結し活動している。なお、「チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト」は、外務省の『令和元(2019)年度版 開発協力白書 日本の国際協力』にその実績が掲載されている。

外務省ホームページ

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/19\\_hakusho/honbun/b4/s1\\_2.html#kakomi2](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/19_hakusho/honbun/b4/s1_2.html#kakomi2)

その他、本学の実習受け入れ先である佐久市をはじめ、JA 長野厚生連佐久総合病院、佐久市立国保浅間総合病院の 4 者による協力のもと、積極的に海外視察等を受け入れている。